

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
常総市	石下西部（岡田地区）	令和4年3月4日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	260.76ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	205.44ha
③地区内における39才以上の農業者の耕作面積の合計	203.30ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	162.35ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	38.20ha
(備考)	

注1：③の「39才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
 注2：④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
 注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
 注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

この地区では、将門川、中沼排水路沿いの土地改良を行った地域が水田として整備されていますが、すでに50年近く経過しております。北部の畑地帯では露地の野菜が作られ、自作や相対耕地が多い。南部地域での畑は平地林の中に農地が点在する状況なことから面積も小さく自作地が多い。水田地域は、土地改良が行われておらず、狭小であり、自作地が多くなっています。土橋地区は用水の問題があり、現在は畑(小麦の作付け)として利用しているが、1反区画が多く、少なくとも3反区画に広げていきたい。圃場の拡大については地権者の了解は得ている。境界杭の対応が課題となる。  
 この地区にも他地区からの入り作が多くなってきており、小作料の問題も出ている。  
 いずれは基盤整備を行い、農道の道幅も広くし、大型機械の通行を良好にできればよい。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

この地域では、13名の中心経営体の農家がありますが、また、うち3名で中心経営体が耕作している面積の8割以上を占めている。水田地帯での集約がほとんどであるが、更なる集約は可能である。畑地帯ではほとんど集約していないが、立地上なかなか集約は難しい。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。  
 注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

(農地の貸付け等の意向)
アンケートでは貸したい意向の農地については、条件の良くない圃場がほとんどであり、担い手が受けていないところが多く、相対耕の農地を含め、話し合いのよる情報の共有が必要と思う。
(農地中間管理機構の活用方針)
この地域での水田地帯での中間管理機構利用がほとんどだが、中沼排水路周辺の利用がない。畑地帯での利用は難しいことから、耕作効率を高めるためにも自作や相対耕作している水田農地を取り込み、利用を進める。
(基盤整備への取組方針)